



きららです

きららだより

神奈川県立茅ヶ崎支援学校
支援連携グループ教育相談チーム発行
第2号

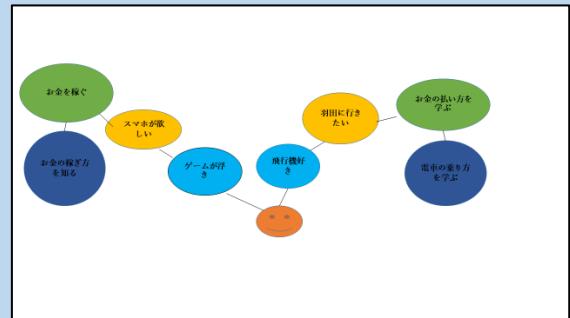


チップも応援しています

茅ヶ崎支援学校では、地域におけるセンター的機能を担っており「教育相談」「巡回相談・研修協力」「情報提供」等を行っています。今号は、本校で行っている支援についてご紹介します。

キャリア教育について

キャリア教育には、ライフキャリア、ワークキャリアの視点があります。ワークキャリア教育は、皆が思い浮かべるような進路についての教育です。ライフキャリア教育は、余暇や生活全般にわたる教育です。例えば、何が好きなのか何がしたいのかを見つけることでそれを広げ余暇につなげたり、楽しみを取り入れて生活するためにはどんなことが必要かと一緒に考えたりすることが授業で行う指導の手立てになるかと思います。イラストや写真も使用して1人1人の希望や夢をイメージできるように可視化します。「何が好きで何をしたくてそのためには何をしなければそれにたどりつけないか」を本人と周囲が確認できるようにする例を示します。(右図；イメージ図)右図の項目をどんどん増やしていきます。目標達成のためのタスクやスマートルステップによるチャレンジを行っていきます。できたら、評価を行って、本人も支援者も分かるフィードバックをして、次の目標に進みます。高校を卒業する時にどのような姿になるかをイメージして具体的な活動に生かしていきます。(教育相談コーディネーター 藤本)



構造化について

茅ヶ崎支援学校で行われている支援の中から「構造化」についてご紹介します。構造化とは、「どう動いたらよいのか」「何をしたらよいのか」を子どもたちが自分で考え、安心して行動するための方法です。「環境」や「活動」を子どもたちにわかりやすく伝えるために、視覚的に示したり（見える化）、実際に設定したりするものです。子どもたち一人ひとりに合わせた工夫をしています。

構造化のポイントと言える「見える化」の基本的な要素は、①いつ、②どこで、③何を、④どのようなやり方で、⑤どうなったら終わりか、⑥終わったあと次に何があるのか、です。この要素を含む形でわかりやすく提示したり、子どもたちの行動が自然と促されるように設定したりします。構造化は特別なものではなく、私たちも日々構造化された社会の中で生きています。手帳やスマホのアプリで一日の予定を確認したり、スーパーでレジに並ぶ動線がマークで示されていましたりすることもその一つです。やることがわかり、見通しをもてるからこそ安心して過ごせる。大人でも子どもでも、誰にでも当てはまることがあります。

(教育相談コーディネーター 富田)

更衣室の前
靴を置く位置



課題をやる順番、
どこまでやったら
終わりかがわかる

課題・作業 BOX



この時間にやること

次の授業の

座席の位置

誰とやるか

どこでやるか

次の授業の

座席の位置

誰とやるか

どこでやるか

ことば・コミュニケーションについて

ことばの指導や学校生活に於いて、音声言語が用いられることが多いかと思いますが、その機能は人それぞれであり、個々の理解面、表出面等、それぞれの実態を把握することが重要となります。AAC (Augmentative and Alternative Communication)「拡大・代替コミュニケーション」を活用することも有効とされており、音声以外のコミュニケーション手段として、身振り記号（ジェスチャー・手話等）、触覚的記号（実物・ミニチュア）、視覚的記号（絵・写真・文字）があり、個々の特性やレベルに合わせて使用を検討します。指示に従えない、反応が薄い、泣く、暴れるなどの様子がみられる子どもの背景に、実は、投げかけられる言葉が難しい・多すぎる、日常的に情報が入りにくく見通しが持てない、表現したい感情があるのにその手段を試したことがないといったケースもあります。困り感の背景に“ことば・コミュニケーション”が関わる事もあり、コミュニケーションに於いて、どのような配慮が必要なのかを明確にしておくことは、的確な“合理的配慮”につながるかと思います。

特別支援学校ではAACを活用し、見通しを持ちやすくしたり、実態に応じたコミュニケーション手段を試せるようにしたりしています。

AACの具体的な検討についても言語聴覚士にご相談いただければと思います。

（言語聴覚士 佐藤）



からだに合った靴の選び方

「ふらふら歩く」、「よく転ぶ」、「床にべたべた足を打ち付けて歩く」等の相談は、校内外ともに多い相談の一つです。運動・姿勢・補装具等身体の専門職である理学療法士の視点から支援をみていきましょう。まずは足自体に変形はないでしょうか？例えば土踏まずが平坦な扁平足ではないですか？裸足になって足全体を確認してみましょう。赤みやタコなど、一点に圧が集中していないか確認します。明らかな変形が見られる場合は、整形外科健診で確認してもらう他、先に理学療法士にご相談いただき確認することもできます。

次に中敷きを出して靴のサイズを確認します。踵を中敷きに合わせて、つま先に 0.5~1.5cm 前後余裕があるサイズを選びます。歩きが安定しない方は、さらに①踵の芯が硬めでしっかりしている②踏み返ししやすいように前足部が反りあがっている③踏み返ししやすいように靴底前部がたわむ④足の甲をしっかりとめられるようにマジックテープがついている、靴を選びましょう。近年の子ども用スニーカーには①~④の機能がついているものが多く見られます。

室内用上靴はどうでしょうか？上靴は薄めの生地に靴底も薄めのため、安定感よりも動きやすさを保証しているタイプが多く見られます。気を付けの姿勢や歩きが安定している方には薄めの生地の上靴を選び、歩きが不安定な方には生地が硬く、踵周りに芯が入っている硬めの上靴を選ぶ等、それぞれのからだに適した靴選びをしましょう。

（理学療法士 本杉）

